The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	マテンゴ語の他動詞と自動詞に関する試論 : 形態による分類を中心に
Author(s)	米田, 信子
Citation	スワヒリ＆アフリカ研究. 2000, 10, p. 183-198
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71097
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

マテンゴ語の他動詞と自動詞に関する試論
—形態による分類を中心に—

米田　信子

1. はじめに

1.1. 本稿の目的

マテンゴ語はバンツー諸語のひとつで，タンザニア西南部，マラウィ湖東岸に位置するンビンガ県で話されている。

マテンゴ語の動詞語幹は以下のように構成される。

┌拡大語根[1]┐								
語根	―	拡大辞	―	派生辞[2]	―	語尾		
- hat	-	amb	-	ul	-	a	「平らにする」	(-hatambula)
- hat	-	amb	-	uk	-	a	「平らになる」	(-hatambuka)

派生辞は，語根もしくは拡大語根（語根＋拡大辞）が表わす動詞の基本的意味に一定の意味を付与する要素である。その派生辞を入れ替えることで上記のように同じ拡大語根が他動詞にも自動詞にもなる。ただし動詞の「自他」に係わる派生辞はいくつもあり，それぞれの機能も一様ではない。またこれらの派生辞は生産的にどの動詞語根にでもつけられるというわけではなく，固定化している。

本稿ではマテンゴ語動詞の意味分析の前段階として，他動詞と自動詞を派生辞による形態で分類し，それぞれの特徴を概観することによって「自他」を表わす各派生辞の機能を明らかにすることを試みる。データはすべて筆者が現地調査[3]で集めたものを用いる。

1.2. マテンゴ語の母音と子音

マテンゴ語の母音と子音は次のとおりである。

母音：	短母音	/ i, e, ɛ, a, ɔ, o, u̇/
	長母音	/ iː, eː, ɛː, aː, ɔː, oː, uː / (i̱, e̱, ɛ̱, a̱, ɔ̱, o̱, u̱ と表記)
子音：	破裂音	/ p, b, t, k, g /
	摩擦音	/ s, h /
	破擦音	/ dʒ / （鼻音に先行されると [ndz]となる。）
	鼻　音	/ m, n, ɲ, ŋ /
	接近音	/ l / （ lは鼻音に先行されると [nd]となる。）
	半母音	/ w, j /

なおマテンゴ語では動詞語幹に声調の対立がないので声調の記入は省略する。

1.3. 自他を表わす派生辞と動詞の基本的意味

先に述べたとおり，マテンゴ語には他動詞をつくる派生辞と自動詞をつくる派生辞があるが，すべての動詞にそのどちらかの派生辞がついているというわけではない。-lok-「編む」のように派生辞がつかない他動詞，-dʒom-「乾く」のように派生辞をとらない自動詞もある。この場合は，動詞の（拡大）語根が表わす基本的意味がそれぞれ「他動詞的」あるいは「自動詞的」であると考えられる。はじめに示したような他動詞と自動詞の対がある場合でも，そのどちらか一方にだけ派生辞がつく場合がある。例えば派生辞のつかない形（これを「基本形」と呼ぶ）が他動詞で，対になる自動詞に派生辞がついている場合であれば，その動詞語根がもつ基本的な意味が「他動詞的」であり，派生辞をつけることでそこに「自動詞的」意味を付与したと考えられる。しかしながら他動詞と自動詞をつくる派生辞は他の派生辞の場合と異なり，基本形が存在しない（あるいは少なくとも現在は使われていない）という場合も多い。そのような場合，その動詞語根のもつ基本的意味が何であるかを知ることは（他のバンツー諸語や他の派生形などから推測することができる場合も少しはあるが）難しい。

自他を表わす派生辞には以下のようなものがある。それぞれの派生辞の名前に「他動詞形」「自動詞形」とつけているが，それらが他動詞，あるいは自動詞にしか用いられないわけではなく，最も頻繁に用いられるところから便宜上つけた名前である。

主に自動詞をつくる派生辞

①「自動詞形」派生辞 1　　:　　-uk-

②「自動詞形」派生辞 2　　:　　-ik-

③「自動詞形」派生辞 3　　:　　-al-

④「自動詞形」派生辞 4　　:　　-at-

⑤「自動詞形」派生辞 5　　:　　-anik- / -ikan-

主に他動詞をつくる派生辞

①「他動詞形」派生辞 1　　:　　-ul-

②「他動詞形」派生辞 2　　:　　-il-

③「他動詞形」派生辞 3　　:　　-i-

④「他動詞形」派生辞 4　　:　　-u-

これらの派生辞は語根の母音と以下のように母音調和する。

派生辞の母音が/ u /の場合

語根の母音が o の場合　　・・・ o

語根の母音が ɔ の場合　　・・・ ɔ

派生辞の母音が/ i /の場合

語根の母音が e, o の場合　　・・・ e

語根の母音が ε, ɔ の場合　　・・・ ε

派生辞の母音が/ a /の場合

語根の母音が e, の場合　　・・・ e

語根の母音が ε, の場合　　・・・ ε

2. 各派生辞の機能

本稿では，他動詞と，その他動詞と同じ動詞語根で他動詞の目的語を主語にとる自動詞とを「対」と呼ぶ。以下，動詞の自他を表わす派生辞がどのように機能しているかを明ら

かにするために，自動詞と他動詞を対にして例をあげていく。例は拡大語根と派生辞をハイフンで区切って表わす。拡大語根の前に記した＊は，そのような基本形が存在しないか，少なくても現在では用いられていないことを表わす。

2.1. 自動詞形派生辞

2.1.1. 自動詞形 1

派生辞： -uk- / -ok-（語根の母音が o の場合）/ -ɔk-（語根の母音がɔ の場合）

自動詞を表わす。この派生辞が基本形に接辞する場合には，そのまま自動詞化するものと，反意の自動詞化するものがある。これらはいずれも働きかけの結果としての状態変化を表わす自動詞である。対になる他動詞が基本形でない場合には，派生辞 -ul- / -u- がつく。その場合には，状態変化だけではなく，働きかけの遂行が可能である，という可能表現になることもある。

「状態自動詞」

1) -njɛmb-uk-	「曲がる」	-njɛnb-	「曲げる」
2) -kaŋand-uk-	「卵がかえる」	-kaŋand-	「卵をかえす」
3) -hal-uk-	「横にさける」	-hal-	「横に割る」
4) -dʒɔl-ɔk-	「多い」	-dʒɔl-	「集める」
5) -ɲuŋaɲ-uk-	「とける」	-ɲuŋuɲ-	「口中で味わう」
		-ɲuŋaɲ-u(l)-	「とかす」
6) -ŋanamb-ik-	「ひっくり返る」	* -ŋanamb-	
		-ŋanamb-u(l)-	「ひっくり返す」
7) -hop-ok-	「抜ける」	* -hop-	
		-hop-ol-	「抜く」
8) -dʒɔm-ɔk-	「終わる 」	*-dʒɔm-	
		-dʒɔm-ɔl-	「終える」

「反意自動詞」

9) -bomb-ɔk-	「崩れる」	-bomb-	「つくる」
10) -tɛg-uk-	「罠が失敗する」	-tɛg-	「罠をしかける」

「可能」

11) -hjoŋgal-ok-	「まわせる」	*-hjoŋgal-	
		-hjoŋgal-o(l)-	「まわす」
		-hjoŋgal-ot-	「回る，取り囲む」

2.1.2. 自動詞形２

派生辞：-ik-/ -ek-（語根の母音が e, o の場合）/ -ɛk-（語根の母音が ɛ, ɔ の場合）

主に，働きかけの結果としての状態変化，あるいは働きかけの遂行が可能であることを表わす。

「状態自動詞」

12) -hul-ik-	「脱げる」	-hul-	「脱ぐ」
13) -gɔlul-ɛk-	「まっすぐになる」	-gɔlɔl-	「まっすぐにする」
14) -bulung-ik-	「丸まる」	-buluŋg-	「丸める」
15) -dʒɔndzuk-ɛk-	「増える」	* -dʒɔndzuk-	
		-dʒɔndzuk-ɛl-	「増やす」

「可能」

16) -dʒob-ɛk-	「はがせる」	-dʒob-	「皮をむく」
17) -hɔŋgul-ɛk-	「尖らせられる」	-hɔŋgɔl-	「尖らせる」
		-hɔŋg-ɔk-	「尖る」
18) -lam-ik-	「治る（治癒可能）」	-lam-	「治る，生きる」
		-lam-i-	「治す」
		-lam-il-	「薬が効く」

19) -dʒiŋg-ik-	「差し込める」	*-dʒiŋg-	
		-dʒiŋg-i-	「差し込む」
		-dʒiŋg-il-	「入る」
20) -hiŋgal-ik-	「転がせる」	*-hiŋgal- / -hiŋgil-	
		-hiŋgal-i(l)-	「転がす」
		-hiŋgal-it-	「転がる」

「受け身」

マテンゴ語には受け身を表わす派生形はない。「生まれる」，「嫁ぐ」という動詞は，多くのバンツー諸語で，「産む」，「めとる」という動詞の受け身形で表わされるが，受け身の派生形がないマテンゴ語では，これらは自動詞形派生辞２を接辞して表現されている。

21) -bɛl-ak-ɛk-	「産まれる」	-bɛlɛk-	「産む」
22) -tog-ul-ek-	「（女が）結婚する」	-togol-	「(男が) 結婚する」
23) -pal-ik-	「要求されている」	-pal-	「好む，要る」

「他動詞」

わずかであるが，他動詞化するものもある。その場合は対になる自動詞はいずれも行為者を主語にとれる動作動詞である。

24) -dʒem-ek-	「立てる」	-dʒem-	「立つ」
25) -hwat-ik-	「着せる」	-hwat-	「着る」
26) -mamat-ik-	「くっつける」	* -mamat -	
		-mamat-il-	「くっつく」

2.1.3. 自動詞形３

派生辞：-al-（動詞語根の母音と同じ母音になる）

働きかけの結果としての状態の解釈も，動作者が主語になる動作の解釈も可能な自動詞

を表わす。母音調和の結果，派生辞 -il- と同じ現われかたになるが， -il- の場合とは異なり， lの省略はできない。対になる他動詞は他動詞形３の派生辞をとる。この派生辞が後舌母音 / o，ɔ /をもつ動詞語根に接辞されることはない。

27) -hɛg-ɛl-	「離れる」	* -hɛg-	
		-hɛg-ɛ-	「離して置く」
28) -dʒiŋg-il-	「入る」	* -dʒiŋg-	
		-dʒiŋg-i-	「差し込む」
29) -dʒendz-el-	「ぶら下がる」	* -dʒendz-	
		-dʒendz-e-	「ぶら下げる」
30) -hig-il-	「残る」	* -hig-	
		-hig-i-	「残す」
31) -ɲil-il-	「滑り降りる」	* -ɲil-	
		-ɲil-i-	「滑り降ろす」

2.1.4. 自動詞形４

派生辞：-at-（動詞語根の母音と同じ母音になる）

他からの働きかけを必要としない，動作を表わす自動詞を作る。基本形は存在しない。例は以下の２つしか見つかっていない。

32) -hiŋgal-it-	「自分で転がる」	* -hiŋgal- / -hiŋgil-	
		-hiŋgal-i(l)-	「転がす」
		cf. -hiŋgal-ik-	「転がせる」
33) -hjoŋgal-ot-	「回る，取り囲む」	* -hjoŋgal-	
		-hjoŋgal-o(l)-	「まわす」
		cf. -hjoŋgal-ok-	「まわせる」

2.1.5. 自動詞形５

派生辞：-anik-，-ikan-

対になる他動詞はすべて基本形で，状態や形状の変化を促すことのない働きかけを表わす。そして派生辞がつくことでその働きかけが遂行可能であることを表わす可能表現の自動詞になる。

34) -bag-anik-	「分けられる」	-bag-	「分ける / 配る」
35) -dʒɔgw-anik-	「聞こえる」	-dʒɔgw-	「聞く」
36) -bɔn-ikan-	「見える」	-bɔn-	「見る」

2.2. 他動詞形派生辞

2.2.1. 他動詞形１

派生辞：-ul- / -ɔl-（語根の母音が oの場合）/ -ɔl-（語根の母音が ɔの場合）

他動詞を表わす。自動詞形派生辞１-uk-と対をなし，対象物の状態変化を促す他動詞とその結果としての状態を表わす自動詞という関係にある。基本形が他動詞の場合，この派生辞を付加することによって意味が一般化する場合と反意を表わす場合がある。43，44のように l が省略されることもある。その場合には他動詞形派生辞４と同じになる。

「他動詞」

37) -kaŋand-ul-	「殻を割る」	-kaŋand-	「卵をかえす」
		-kaŋand-uk-	「はじき割れる」
38) -ɲuŋaɲ-u(l)-	「とかす」	-ɲuŋuɲ-	「口で味わう」
		-ɲuŋaɲ-uk-	「とける」
39) -kadʒ-ul-	「割る」	*-kadʒ-	
		-kadʒ-uk-	「割れる」
40) -tun-ul-	「折る」	*-tun-	
		-tun-uk-	「折れる」

41) -kagadʒ-ul-	「つぶす」	*-kagadʒ-	
		-kagadʒ-uk-	「つぶれる」
42) -gɛlam-ul-	「あふれさせる」	*-gɛlam-	
		-gɛlam-uk-	「あふれる」
43) -hɔlam-ɔl-	「引き抜く」	*-hɔlam-	
		-hɔlam-ɔk-	「抜ける」
44) -ŋanamb-u(l)-	「ひっくり返す」	*-ŋanamb-	
		-ŋanamb-ik-	「ひっくり返る」

「反意他動詞」

45) -bomb-ol-	「とりこわす」	-bomb-	「つくる」
		-bomb-ok-	「壊れる」
46) -hib-ul-	「栓を開ける」	-hib-	「穴を埋める」
		*-hib-uk-	
47) -pak-ul-	「荷をおろす」	*-pak-	
		-pak-il-	「積み込む」
48) -dʒan-ul-	「（乾かしていた物を）とりいれる」	*-dʒan-	
		-dʒan-ik-	「干す」
49) -band-ul-	「はがす」	* -band-	
		-band-ik-	「くっつく」

上記の例のうち，基本形があるのは例 37，38，45，46 だけで，基本形はいずれも他動詞である。つまり，基本形が存在している場合には，派生辞 -ul-がついても動詞の自他に

は変化がない。例 37，38 は，基本形では限定されていた意味が -ul-が接辞されることによって意味する範囲が広くなっている。例 45 と 46 は，派生辞がつくことによって，反意の意味になる。例 39～44 と例 47～49 は基本形が存在しないため，基本形の意味との関係は明らかではないが，例 39～44 は，派生辞を -uk- に入れ替えると状態変化を表わす自動詞になる。例 47～49 の語根に派生辞 -uk- がつく形は存在しないが，例 47 は派生辞 -il- ，例 48 と 49 は派生辞 -ik-に入れ替えると，それぞれ -ul- がつく場合とは反意の他動詞になる。

2.2.2. 他動詞形２

派生辞：-il- / -el-（語根の母音が e, o の場合）/ -εl- （語根の母音が ε, ɔ の場合）

主に状態の変化を促す他動詞を表わす。派生辞の/l/は省略されることもある。その場合には他動詞形３の派生辞との区別がなくなる。わずかだが，自動詞を表わすこともある。その場合には，対になる他動詞はなく，基本形あるいは派生辞を交替させた自動詞とは反意になる。

「他動詞」

50) -hjekal-e(l)-	「覆いをかぶせる」	* -hekal-	
		-hekal-ek-	「覆ってある」
51) -pagak-i(l)-	「固定させる」	* -pagak-	
		-pagak-ik-	「動かなくなる」
52) -dʒɔnduk-ε(l)-	「増やす」	* -dʒɔnduk-	
		-dʒɔnduk-εk-	「増える」

「反意自動詞」

53) -mamat-il-	「しがみつく」	* -mamat-	
		-mamat-uk-	「はがれる」
54) -nuŋg-il- [4]	「いい匂いがする」	-nuŋg-	「臭い」

2.2.3. 他動詞形３

派生辞：-i- / -e-（語根の母音が e, o の場合）/ -ɛ- （語根の母音が ɛ, ɔ の場合）

この派生辞は，バンツー祖語の「使役形」に由来するものであると思われる（Guthrie 1970）。マテンゴ語では，この派生辞が接辞されると，誰かに何かをさせる，という「使役」の意味ではなく，対象物の状態が変化するように働きかける，という意味になる。従って「状態変化を促す他動詞」と，意味的な差が見られない場合が多い。対の自動詞に派生辞がつく場合には，自動詞形派生辞２あるいは自動詞形派生辞３が付く。この派生辞は，後舌母音/ o，ɔ /をもつ動詞語根には付加できない。

55) -lam-i-	「治す」	-lam-	「治る，生きる」
56) -le-e-	「食べさせる」	-le-	「食べる」
57) -dʒendz-e-	「ぶら下げる」	*-dʒendz-el-	
		-dʒendz-el-	「ぶら下がる」
58) -hig-i-	「残す」	*-hig-	
		-hig-il-	「残る」
59) -ɲil-i-	「滑り降ろす」	*-ɲil-il-	
		-ɲil-il-	「滑り降りる」
60) -tin-i-	「焦がす」	*-tin-	
		-tin-ik-	「焦げる」
61) -haŋganak-i-	「混ぜる」	*-haŋganak-	
		-haŋganak-ik-	「混ざる」

2.2.4. 他動詞形４

派生辞： -u- / -o-（ 語根の母音が oの場合 ）/ -ɔ-（語根の母音が ɔの場合 ）

状態や状況，場所の変化を促す他動詞を表わす。この派生辞をとる他動詞は，対になる

自動詞が自動詞形派生辞１をとるものに限られる。基本形が存在するものはない。

62) -sus-u-	「消す」	*-sus-	
		-sus-uk-	「消える」
63) -hab-u-	「倒す」	*-hab-	
		-hab-uk-	「倒れる」
64) -tal-u-	「動かす」	*-tal-	
		-tal-uk-	「離れる」
65) -dʒim-u-	「起す」	*-dʒim- [5]	
		-dʒim-uk-	「起きる」
66) -lɔmb-ɔ-	「向こう岸に渡す」	*-lɔmb-	
		-lɔmb-ɔk-	「渡る」

さて，他動詞形派生辞３と他動詞形派生辞４において，対応する自動詞の基本形が存在し，明らかに派生辞であると考えられるのは例 55 と 56 の２例だけである。基本形が存在しない例 57～66 については，派生辞として認めるべきかどうか，難しいところである。これらの例では，他動詞の語根の後ろの母音をハイフンで区切って派生辞とみなしているが，この母音は拡大辞であるとも考えられる。つまり，他動詞は，V という音節構造の拡大辞を伴なう基本形であり，自動詞を表わす派生辞の母音がその母音だけの拡大辞に融合しているという考えである。しかしながら，もし V という音節構造の拡大辞が常に他動詞についているのであれば，その要素は「他動詞を表わす」という特定の意味を持つことになり，特定の意味を持っている以上，拡大辞ではなく派生辞である。

2.3. その他

以下の対は，他動詞，自動詞とも派生辞を取っていない。

67)	-be-	「沸かす」	-bel-	「沸く」
68)	-bo̱-	「動かす」	-bo̱k-	「動く」
69)	-hɔ-	「なくす」	-hɔb-	「なくなる」
70)	-pi-	「出す」	-pit-	「出る」
71)	-pjo-	「あたためる」	-pjop-	「あたたまる」[6]
72)	-dʒɔgɔ-	「怖がらせる」	-dʒɔgɔp-	「怖がる」

基本形は自動詞であると思われるが，そこから語根末の子音を取り除くことで他動詞化している。他動詞形３もしくは４の派生辞が接辞した他動詞を見ると，表面的には「自動詞から語基末の子音を取り除く」という形態変化で他動詞化している。67～72 のような例は，この過剰適用による現象である可能性も考えられる。

3.「対」のない自動詞と他動詞

さて２章では，例をすべて自他の対で示したが，すべての動詞にこのような自他の対が存在しているわけではない。以下，対になる他動詞が存在しない自動詞，および対になる自動詞が存在しない他動詞の例を示す。

3.1. 無対他動詞

「他動詞形」派生辞１：-ul-

-hag-ul-	「穴を掘る」
-hemb-ul-	「掘り起こす」
-bag-ul-	「手ですくいあげる」

「他動詞形」派生辞２：-il-

-dʒɛg-ɛl-	「（液体を）注ぐ」
-bund-il-	「ウガリの表面を整える」

「他動詞形」派生辞３：-i-

-tɔm-ɛ-	「もむ」
-laŋg-i-	「案内する」

派生辞のつかないもの

-bɛ̱k-　　「置く」

-lɔmb-　　「買う」

対の自動詞をもつ他動詞は，すべて瞬時の行為を表わしている。それに対して，対がない他動詞は継続的な行為を表わしている。早津（1995:179）は日本語の無対他動詞について「働きかけの過程の様相に注目する動詞が多い」と述べているが，マテンゴ語の場合にも「働きかけの過程」という時間的な幅が存在する点で共通している。

さて上の例が示すとおり，対のない他動詞も対のある他動詞と同じ派生辞をとっている。対の有無に形態の違いはない。従って，ここにあがっている派生辞には有対他動詞と無対他動詞の重要な違いである「継続，非継続」には，直接係わっていないと考えられる。

3.2. 無対自動詞

対の他動詞をもつ自動詞のほとんどが状態を表わす自動詞である。ただし，状態を表わす自動詞でも，以下の例のような性質や属性を表わすもの，変化を促す働きかけを伴なわない状態や状況，を表わすものは対の他動詞をもたない。

-bab-　　「苦い」

-nɔg-　　「おいしい」

-bɛ̱p-　　「不潔である」

-kun-　　「雨が降る」

-kɛt-uk-　　「雨が止む」

動作・行為を表わす自動詞のうち，対の他動詞があるのは「瞬間的行為」だけである。以下のような「継続的行為」を表わす自動詞は，対の他動詞を持たない。

-butuk-　　「走る」

-sɔm-　　「読む」

-pomulel-　　「休憩する」

4. まとめ

自動詞形派生辞と他動詞形派生辞は，以下のようにまとめられる。

①自動詞形派生辞１の -uk-は，他動詞形派生辞１の -ul-あるいは他動詞形派生辞４の -u-と対をなし，他動詞が表わす働きかけの結果として変化した状態や形態を表わす自動詞に用いられる。他動詞の基本形に付加される場合には，対は「働きかけと結果」の関係以外に「働きかけと結果の反意」の関係になることもある。自動詞の基本形に付加されることはない。

②自動詞形派生辞２の -ik-は，他動詞形派生辞２の -il-と対をなし，その結果として変化した状態を表わす自動詞をつくる。受け身表現にも用いられる。他動詞の基本形に接辞される場合には，他動詞の働きかけが遂行可能であることを表わす自動詞になる。

③自動詞形派生辞３の -al-は，状態と動作の両方の解釈が可能な自動詞に用いられる。状態の解釈がなされる場合には，他動詞形派生辞３-i-と対をなす。

④自動詞形派生辞４の -at-は，動作自動詞を表わす。

⑤自動詞形派生辞５の -anik-， -ikan-は，基本形の他動詞につき，その他動詞が表わす働きかけが遂行可能であることを表わす。

⑥他動詞形派生辞１の -ul- は，状態の変化を促す他動詞に用いられる。

⑦他動詞形派生辞２の -il-は，主に状態の変化を促す他動詞に用いられるが，自動詞に用いられることもある。その場合は行為者を主語にとる動作自動詞になる。

⑧他動詞形派生辞３-i-と他動詞形派生辞４ -u- は，他者に対する働きかけ，あるいは状態の変化を促す他動詞を表わす。このうち動詞語根の母音が後舌母音の場合には他動詞形派生辞４しか用いられない。

以上，他動詞と自動詞を表わす派生辞の機能と用法を，派生辞の別に述べた。これはマテンゴ語動詞の意味分類，特に他動性について考察していくための第一段階であり，「叩き台」となる分類である。本稿で考察したこれら派生辞の機能が，動詞の基本的意味の持つ「継続性」や「意図性」，あるいは「他動性」といった性質に対してどのように働いているの，今後さらに追求していくつもりである。

注

1) 拡大辞はそれ自体が意味を持たないので形態論的には動詞語根と分けるのが難しく，語根と拡大辞を分けずに「動詞語根」として扱う研究者も多い。

2) 派生辞には，他に以下のようなものがある。

-an-	相互形	-bag-an-	「分け合う」	<	-bag- 「配る」
-il-	適用形	-tɛlɛk-el-	「～のかわりに料理する」	<	-tɛlɛk- 「料理する」
-alil-	強調形	-ling-alil-	「見つめる」	<	-ling- 「見る」
-is-	使役形	-hɛmal-ɛs-	「売る」	<	-hɛmɛl- 「買う」

3) この現地調査は文部省科学研究補助金（国際学術研究）「東アフリカにおける地域共通語に基づく文化圏生成とエスニシティの構造」（研究代表者：大阪外国語大学 宮本正興教授）により，1996年9月～1997年2月，1997年7月～11月にタンザニア南西部ンビンガ県で行なった。インフォーマントは1932年ンビンガ県リテンボ生まれのマテンゴ人男性のC.S. Ndunguru Kamchatika氏。両親，配偶者ともマテンゴ人である。

4) スワヒリ語の場合を考えると，これは「適用形」派生辞である可能性もある。

5) 65の -dʒim-と66の -lɔmb-は，それぞれ「あげるのを拒否する」，「買う」という意味を持つが，これらはここで扱っている派生形に対応する基本形ではない。

6) -pjop-，-dʒogop-は名詞あるいは形容詞から派生した動詞である。バンツー祖語もこれらの動詞は以下のように-p-が接辞されて派生している（Meeussen 1967:91)。

-piu-p-	「あつくなる」	<	-pi-u	「熱い」
-ogo-p-	「怖がる」	<	-oga	「恐れ」

参考文献

Guthrie, M. 1967-1971. *Comparative Bantu,* Ⅰ～Ⅳ, Gregg International, Farnborough.

早津 恵美子 1995. 「有対他動詞と無対他動詞の違いについて」『動詞の自他』須賀一好，早津恵美子編，ひつじ書房：東京

Meeussen, A. E. 1967. "Bantu Grammatical Reconstructions", *Africana Linguistica 3. Annales du Musee Royal de l'Afrique Centrale, 61.*